

一般社団法人 日本先天代謝異常学会 秋の理事会 議事録

日 時：2025 年 9 月 2 日（火）13：00～15：10

開催形式：ハイブリッド

場 所：京都国際会館 Meeting Room M2（Room C-2）
および Zoom

出席者：（五十音順敬称略、下線は Zoom 参加者）

- ・理事総数：13 名 出席理事 11 名
- ・監事総数：2 名 出席監事 2 名
- ・オブザーバー出席（庶務幹事・幹事）：6 名

<出席理事>

中村公俊（議長兼議事録作成者）、伊藤哲哉、大石公彦、
窪田 満、小須賀基通、小林弘典、小林正久、但馬 剛、
濱崎考史、村山 圭、渡邊順子

<出席監事>

小林博司、長谷川有紀

<欠席理事>

石毛美夏、中島葉子

<オブザーバー出席>（庶務幹事・幹事）

庶務幹事：城戸 淳

幹事：大友孝信、櫻井 謙、高野智圭、李 知子、和田陽一

A. 理事長挨拶（中村理事長）

B. 報告事項

1. 事務局関連報告（城戸庶務幹事）

会員数推移、会費納入状況について、2024 年度会員は 2025 年 7 月 31 日時点で 721 名、新規入会者 30 名、退会者 18 名、年会費納入率 76.8%との報告があった。なお、資料 1 の 2022 年度の記載が 2022 年 9 月 1 日～11 月 9 日までの集計数になっているため、次回報告の際には 2022 年 9 月 1 日～2023 年 8 月 31 日の集計数に修正する予定である。また、名誉会員は松田一郎先生、鈴木邦彦先生がご逝去されたため 8 名となり、企業会員は 15 社である。

2024 年度事業報告として、日本先天代謝異常学会アドバンスセミナーが 2025 年 2 月 22 日～23 日に、第 21 回日本先天代謝異常学会セミナーが 2025 年 7 月 19 日～20 日

に、出張・先天代謝異常学会セミナー in 北海道が 2025 年 8 月 9 日に実施されたとの報告があった。

第 65 回日本先天代謝異常学会学術集会は 2024 年 11 月 7 日～9 日にステーションコンファレンス東京で窪田理事を会長として開催された。日本先天代謝異常学会雑誌第 40 巻は 1020 部、News Letter Vol.12 は 800 部、オンラインジャーナル誌 Vol.41 2025 は 2 編発行された。

また、2025 年 2 月より事務局委託先を株式会社コンベックスから株式会社エム・シー・アイに変更した。

2. 理事会メール審議内容・結果（中村理事長）

2025 年 5 月 1 日～2025 年 8 月 31 日まで

1) 2025 年 5 月 30 日

「休会及び復会に関する規程」について：2023 年の理事会で審議した「休会及び復会に関する規程（案）」を運用することについて。

結果：承認

2) 2025 年 6 月 6 日

ニュースレターの発行予算について：これまで広報委員会が担ってきたニュースレター編集作業の一部（組版等）の外注と送料値上がりに伴う予算の増額について。

・印刷/編集費 約 10 万円→約 25 万円

・封入/発送費 約 15 万円→約 20 万円

結果：承認

3) 2025 年 6 月 17 日

「名義使用依頼申告書」「反社会的勢力排除に係る誓約書」について：イベントへの学会後援の申請書「名義使用依頼申告書」「反社会的勢力排除に係る誓約書」について（後援依頼があった際は、総務委員会が決済し理事長に報告する形とし、判断に迷うものは理事会に諮る）。

結果：承認

4) 2025 年 6 月 24 日

修正後の 2025 年度予算案について：前回理事会で追加された事業等について予算措置が生じたため修正した 2025 年度予算案について。

結果：承認

5) 2025 年 7 月 11 日

アミカス在宅投与要望書について：薬事委員会が作成し

た「シパグルコシダーゼ アルファ（製品名：ボムビリテ
ィ）およびミグルスタット（製品名：オプフォルダ）を
在宅医療における「保険医が投与・処方できる注射薬お
よび内用薬」の対象薬剤に追加する要望」について。

結果：承認

6) 2025 年 7 月 25 日

「セピアプテリン暫定指針」について：PTC セラピュー
ティクス社が開発したフェニルケトン尿症に対する新規
薬剤であるセピアプテリンについて、PMDA から本学会と
連携して使用指針を作成するよう求められたということ
を受け、薬事委員会で作成した投与暫定指針について。

結果：承認

3. 学会各賞選考委員会

応募締切の2025年8月5日までに下記の応募があった。
今後審査を実施し、次回臨時理事会で結果を報告する。

1) 学会賞：李知子評議員 推薦

松尾雅文（神戸大学大学院）

2) 奨励賞：笹井英雄評議員 推薦

川合裕規（岐阜大学医学部付属病院）

4. 学術集会 今後の予定と準備状況

下記のとおり開催概要と準備状況が説明された。

1) 2025 年：ICIEM2025（中村理事長）

会 期：2025 年 9 月 2 日（火）～6 日（土）

会 場：京都国際会館

テーマ：Capital of tradition witnesses
cutting-edge transformation.

2) 2026 年：第 66 回（渡邊理事）

会 期：2026 年 10 月 15 日（木）～17 日（土）

会 場：福岡国際会議場

テーマ：To Connect, To Belong, To Move Forward
Together（つなぐ つながる つなげる）

ポスター、プロモーションビデオを作成し、ICIEM2025
で公開予定。

3) 2027 年：第 67 回（大石理事）

日程：2027 年 10 月 28 日（木）～30 日（土）

会場：虎ノ門ヒルズフォーラム

10 月 27 日に慈恵医科大学キャンパスで理事会開催予定。
副会長を小林博司先生と小林正久先生に依頼した。

5. 第 21 回日本先天代謝異常学会セミナー（村山理事）

会 場：東京コンファレンスセンター品川

会 期：7 月 19 日（土）11:00 ～7 月 20 日（日）13:00

配 信：8 月 12 日（火）～9 月 24 日（水）

参 加 費：対面+オンデマンド 20,000 円、

オンデマンド視聴 18,000 円

肝臓研究会参加者（オンデマンド視聴のみ）

9,000 円※「Dr. 窪田に挑戦」の参加者は半額。

参加者数：389 名（現地参加 91 名、Web 参加 276 名、日本
小児肝臓研究会参加者 22 名）

「先天代謝異常症 ベストプラクティスを目指して」を総
合テーマに、3 年目は「治療をして考えよう～こどもたち
の豊かな未来へ～」というテーマで、対面開催+オンデ
マンド配信を行った。アンケートは各項目 5 段階評価で平
均 4.2～4.4 と高評価が得られた。Web 参加の需要が高か
った。

出張・先天代謝異常学会セミナーin 北海道（村山理事）

会 期：2025 年 8 月 9 日（土）

会 場：北海道大学医学部臨床講義棟第 3 講堂

参加費：対面 5,000 円※品川のセミナーの参加者は無料

テーマ：「“見逃さない力”を育てる！先天代謝異常症診
療への招待」

参加者 131 名（現地参加者 31 名）、詳細は次回理事会で
報告予定。

第 22 回日本先天代謝異常学会セミナー（濱崎理事）

会 場：未定（大阪）

日 程：2026 年 7 月

開催形式：未定

6. 委員会報告

1) 国際渉外委員会（中村理事長）

(1) The 7th ACIMD 2027

第 7 回 ACIMD(Asian Congress of Inherited Metabolic

Disease)の開催地について

- ・インドが2027年3月24～27日にデリーで開催を準備中
- ・Board member meetingを2025年9月2日(本理事会後)に開催予定

(2)今後の海外の学会予定

<SSIEM>

2025 京都 (ICIEM)

2026 ヘルシンキ

2027 ダブリン

2028 フィレンツェ

2029 トロント (IOC 会議承認済)

2030 バーゼル

<SIMD>

2026 Rio Grande, Puerto Rico

2027 Tucson, Arizona

<SLEIMPN>

2026 in Costa Rica

<ASIEM>

2026 Christchurch

<ICIEM>

2029 Toronto (SIMD)

2033 (SSIEM)、2037 (SLEIMPN)、2041 (ASIEM)、2045 (JSIMD)

2) 薬事委員会 (伊藤理事)

(1) ヒドロキシコバラミン供給問題

- ・一時的な原末確保により今後数年分の薬剤は製造できることとなった。
- ・今後の対応として、現行の1mg/mlでのプレフィルドシリンジ化によるメチルマロン酸血症治療薬の開発が進行中である。
- ・PMDAからの要望により厚労省の未承認薬・適応外薬検討会議へ申請書を作成し提出したが内容確認が求められているため、現在エイワイファーマ担当部署を中心に対応中である。

(2) 糖原病 Ib 型に対する SGLT2 阻害薬投与について

55 年通知による保険診療承認について小児科学会を通して申請書を提出した。今秋～冬にかけて審査委員会が

あり、そこで検討される予定である。

(3) シパグルコシダーゼ アルファ (製品名: ポムピリティ) およびミグルスタット (製品名: オプフォルダ) を在宅医療における「保険医が投与・処方できる注射薬および内用薬」の対象薬剤に追加する要望書

アミカス・セラピューティクス社からポンペ病治療薬として上記薬剤が承認されるにあたり、現在治験後の長期フォロー患者で行っている在宅投与を引き続き行いたい、という患者会からの強い要望があり、患者会からの要望書に加え本学会からも要望書の提出を依頼された。理事会にて承認済。

(4) セピアプテリン投与の暫定指針 (案) の策定

セピアプテリンの薬事承認、上市に伴い、その使用方法について学会と検討するよう PMDA から要請があったため、PTC セラピューティクス社と内容を検討し、暫定指針 (案) を策定した。理事会承認済。

(5) ドラッグロス予備軍薬剤リストのレビューのご依頼 (シミック株式会社)

前回理事会で濱崎先生からご報告のあったシミック社からのドラッグロス予備軍薬剤リストのレビューの件で、シミックからリストの送付を受け、現在、濱崎先生を中心に内容を検討中である。

(6) 日局 安息香酸ナトリウム「コザカイ・M」製品回収ならびに供給停止

高アンモニア血症治療のための院内製剤として使用されることの多い上記製剤が、製品安定性モニタリングの純度試験、ならびに乾燥減量の確認において、一部のロットで承認規格からの逸脱が認められたため、すべてのロットを対象に自主回収を行い、当面の間当該製品の出荷を停止する通知があった。

同製品は医療用医薬品として流通している唯一の安息香酸ナトリウム製剤 (効能・効果: 保存・防腐・殺菌の目的で調剤に用いる) のため、院内製剤作成に支障をきたすことが考えられる。メーカーからは代替品として安息香酸「コザカイ・M」が提示されているが、これはナトリウム塩ではない酸であるため pH、水に対する溶解度とも低く、保存・防腐・殺菌には効果的だが、患者への投与は適さないと考えられる。また、今回の逸脱の内容

から、すでに処方、製剤化したものまで回収する必要はないとのこと。

これを受けて薬事委員会は、会員へ下記の対応策を提示した。

- ・高アンモニア血症治療用薬品であるブフェニールへの変更
- ・代替品として純度>98%以上の特級試薬を使用すること

※富士フィルム和光純薬、東京化成工業などから入手可能。富士フィルム和光純薬には食品添加物用試薬（純度 99.0%）もあり。

3) 学術教育研究（生涯教育、学術、臨床研究推進）委員会（村山理事）

(1) アミカス・セラピューティクス株式会社からの業務委託

学術委員会で審査を行い、その結果をアミカス社に伝えた（決定はアミカス社が行う）。2025 年度は査読施行中。

(2) JCR 海外留学助成

600 万円×2 年間として、管理規定と申請書は作成済み。前回は 2024 年 11 月から募集を開始した（締切：2025 年 1 月 10 日）が、応募者なし。今年度に再公募する予定で JCR と調整中。

以前に武田薬品の助成金を募集した際も 3 年間応募者がおらず、打ち切りとなった。積極的な周知が必要である。

(3) 2025 年度サノフィ LSD グラント事業

厳正な審査の結果、以下の申請者に支給することになった。

- ・松島小貴（東京慈恵会医科大学）
- ・石塚佑太（川崎医科大学）
- ・小林正久（東京慈恵会医科大学）
- ・木下裕哉（熊本大学病院）
- ・須藤湧太（藤田医科大学医学部）
- ・市本景子（千葉県こども病院）
- ・加藤隆生（順天堂大学医学部附属順天堂医院）

(4) 先天代謝異常学会・若手海外発表支援

先天代謝異常症領域における若手の積極的な海外発表を支援する目的で設立し、毎年 1 名に対して 30～35 万円

の支援を行い、この制度を 10 年間継続する。

2025 年 8 月 1 日に案内をホームページに掲載し募集を開始した。WORLD Symposium 2026 において筆頭演者として発表を行う若手を対象としている。周知をお願いしたい。

4) 社会保険委員会（窪田理事）

令和 8 年度診療報酬改定に向け、2025 年 7 月 24 日に厚労省保険局医療課の医療技術評価学会ヒアリングに参加し、グリコサミノグリカン分析および尿メタボローム分析の要望書について説明を行った。厚労省の担当官からは、精度管理について詳細に質問された。グリコサミノグリカン分析に関しては、日本マスキング学会技術部会による外部精度管理が検討されていることを伝え、信頼性を維持しつつ、全国展開が可能であると回答した。結果は 2026 年 3 月には公開され、要望が採用されれば 6 月から実施される予定。

5) 小児慢性、指定難病委員会（移行期医療）（窪田理事）

(1) 小児慢性特定疾病および指定難病について

厚労省の審議会が開催されていないため、進展なし。難病対策課が小児慢性特定疾病と指定難病を一つにし、制度そのものを見直すという動きがあり、昨年から要望書が保留になっている。

(2) 移行期医療について

小児科学会移行期支援委員会内ワーキンググループで、「自律的意思決定困難な患者の成人移行支援のあり方に関する提言」が作成され、小児科学会 HP に公開された。重症度や疾患にもよるが、原則として本人の意志を可能な限り尊重するように働きかけを行う提言となっている。

6) 栄養特殊ミルク委員会（濱崎理事）

委員会は事案なし。以下について意見交換した。

メープルシロップ尿症の患者に妊娠性の糖尿病があり、通常のメープルシロップのミルクが使用できないため、アミノ酸粉末供給の要望が特殊ミルク安全委員会にあったが、緊急の時にしか供給できないとのことで、断られた。成人のメープルシロップ尿症患者にもアミノ酸粉末

供給ができるような体制にするにはどうしたらよいか。

7) マスクリーニング委員会（特殊検査適正）（但馬理事）

(1) ライソゾーム病(LSD)・副腎白質ジストロフィー(ALD) 新生児スクリーニングの自治体事業化に向けた検討

こども家庭科学研究課題「新規疾患の新生児マスクリーニングに求められる実施体制の構築に関する研究」では、母子保健課からの指示を受けて、各種の新規疾患マスクリーニングの現状評価と、その公的事業化の参考とするため、現行マスクリーニングの再評価を行うこととなった。母子保健課作成の評価項目シートに沿って作業を進め、7月11日に母子保健課へ提出した（※班外提示不可）。

作業終了後、新規対象疾患としての適否を（行政として）判断するための「チェックリスト」を作成するよう母子保健課より指示を受け、8月末に提出した（※班外提示不可）。

(2) 当学会ウェブサイト掲載「精密検査施設一覧」の更新
前回の理事会で決まった方針に沿って、「現在掲載中の情報更新」から作業を進めることとし、各検査項目の担当者宛依頼状を作成した。

8) 患者登録委員会（患者家族会）（小須賀理事）

(1) 代謝異常症患者登録制度『JaSMIn』の活動報告

登録者数：計 1,871 名（2025 年 7 月 2 日集計）

(2) 登録者へのフィードバック

① JaSMIn 通信（メールマガジン）の配信：

3 カ月 1 回／最新 第 91 号

② JaSMIn 通信特別記事（専門医による最新情報の発信）作成：年 4 回、現在 No. 84

メールや郵便物が届かない方が多くいるため、登録者情報の整理を行う予定。

(3) 登録情報の研究利用：新規 1 件

串橋裕子先生（東京医療保健大学 和歌山看護学部看護学科）

「先天性アミノ酸代謝異常症患者の療養行動と病気認知の関連-混合研究法を用いて -」

JaSMIn に登録しているアミノ酸代謝異常症の成人患者に Google form を使用してアンケート調査を代行した。

9) 広報委員会（オンラインジャーナル）（渡邊理事）

(1) 学会ホームページ更新

随時 Website を更新しながら情報提供している。

(2) 電子ジャーナルの編集、査読

現在査読中の投稿論文はなし。

(3) ニュースレター

Vol. 12 2025 年 7 月に発行済み、HP にも公開済み。前年度からの変更点は以下の通り。

① 印刷会社（ナガサコ印刷）に組版、印刷を外注

※ 原稿依頼、原稿整理、校正はこれまで通り広報委員会で担当（事務局のサポートあり）

② 費用の増加

印刷・編集費 約 10 万円→約 25 万円

封入・発送費 約 15 万円→約 20 万円（切手代・郵送費の値上がり分による増額）

これまでニュースレター単体での予算は組まれておらず、「資料、案内、封筒印刷費（予算額 45 万円）」の中で計上されていた。予算変更のためメール審議を依頼し、理事会で承認済。

(4) メディカルノートとの契約について

メディカルノートから医師紹介の依頼があり、成田綾先生を紹介した。今後は企画の段階から相談していただくようメディカルノートに打診する予定。

なお、協定書を再度確認するため、理事にメールで共有することになった。

【審議事項】

審議内容：ニュースレターの予算変更のメール審議の際に、PDF でのメール配信または HP での掲載の提案があった。次年度以降は HP 掲載としたい。

結果：承認。会員には PDF を掲載している URL をお知らせする。セミナーでの配布分はセミナー事務局にコピー機で印刷していただくことになった。

10) 総務委員会（倫理、用語、利益相反、在宅医療・医

療的ケア）（大石理事）

(1) 後援申請に関する承認手続きおよび申請書類の整備について

前回の理事会での審議に引き続き、行政書士による内容確認を経て書類の一部を修正した。なお、当学会の名義使用の範囲は「後援・協力」に限定し、当初案に含まれていた「利益相反自己申告書」は削除した。

最終的な申請書類は、以下の2点で、理事によるメール審議において正式に承認済。

- ・名義使用依頼申告書
- ・反社会的勢力排除に係る誓約書

今後、後援依頼があった場合には、総務委員会が内容を確認・決裁し、理事長に報告する体制とする。判断に迷う案件については、理事会での審議を経て決定するものとする。

(2) 会員データベースの移行に伴う入会手続き等の変更について

会員データベースの移行に伴い、今後は入会・退会の申請や会員情報の変更を、会員自身がシステム上で直接行うことが可能となる。これにより、各種入会申請書の提出は不要となるが、入会希望者に対する評議員からの推薦書の送付方法については、理事長および総務委員長にて検討を行い、推薦書はPDF形式で事務局宛に送付する方式に変更することを決定した。

11) 診断基準・診療ガイドライン委員会（小林弘典理事）

(1) ガイドラインの作業状況について

「新生児マススクリーニング対象疾患等ガイドライン2025（仮）」について、完成までのスケジュールを確定し、本年度末の完成を目指す。

パブリックコメントを募集したのち修正し、理事会メール審議をする予定。

(2) HP掲載ガイドライン

「新生児マススクリーニング対象疾患等ガイドライン2019 part2」を2025年5月19日にWeb公開した。

(3) その他

今後予定されているガイドラインに関する情報提供の呼びかけがあった。また、現在作成中のガイドラインは

以下の通りである。

- ① ALD ガイドライン
- ② ポンペガイドライン

【審議事項】

審議内容：奥山班からの「診断基準ガイドライン」の修正依頼について

結果：後日メール審議とする。

修正された原稿が奥山班から届き次第、理事会メール審議をすることになった。また、奥山班に資料を戻す際に、日本小児科学会の承認が必要と思われる旨、お知らせすることになった。本件について小須賀先生からも日本小児科学会にお声がけいただくことになった。

12) 選挙管理委員会（小林正久理事）

(1) 以下の通り2026年に選挙を実施予定。

- 6月 公示
- 7月 投開票
- 8月31日までに評議員選出
- 9月 理事選挙
- 10月 理事会で承認を得る

(2) 新評議員の選出

2025年8月31日に評議員が2名（高橋勉先生、長谷川奉延先生）任期満了となったため、新評議員として以下の2名を繰り上げて選出した。

福田冬季子先生（浜松医科大学成育医療学）

小坂 仁先生（自治医科大学小児科）

13) 将来計画委員会（小須賀理事）

本年度より将来計画委員会の小委員会として「災害対策小委員会」を新たに設立した。小委員会構成（4名）は以下の通りである。

- ・将来計画委員会委員長（小委員会委員長を兼任）
- ・薬事委員会より選出された委員（治療薬の供給体制担当）
- ・栄養特殊ミルク委員会より選出された委員（特殊ミルク供給担当）
- ・総務委員会より選出された委員（在宅医療・医療的

ケア担当)

必要に応じて、各専門分野からアドバイザーやオブザーバーの協力をお願いする。初年度の委員は、伊藤哲哉先生(薬事)、大石公彦先生(総務)、濱崎考史先生(栄養、日本小児科学会との連携担当)が選出され、学会HP内の委員会ページに「将来計画委員会(災害対策小委員会)」の情報が追加された。

【審議事項】

審議事項：新たな試みとして、若手委員と医師以外の医療関係者を増やしメンバーを再編成した。新委員は以下の通りである(3つ以上の委員会を担当している人は対象外とし、前委員/理事の推薦で選出)。

① 医師

坊 亮輔先生 神戸大学医学部附属病院小児科
志村 優先生 千葉県こども病院代謝科(村山圭先生推薦)
明利聡瑠先生 宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座
(澤田先生推薦)
高瀬隆太先生 久留米大学医学部小児科学講座(2026年大会長の渡邊先生推薦)
角皆季樹先生 東京慈恵会医科大学小児科学講座
松井美樹先生 兵庫医科大学小児科

② 助産師

津島智子様 国立成育医療研究センター 看護部/遺伝診療センター/JaSMIn 事務局

③ 検査技師

渡辺和宏様 東京都予防医学協会小児スクリーニング科
(石毛信之先生推薦)

④ 管理栄養士

藤本浩毅様 大阪公立大学医学部附属病院 栄養部

結果：承認

※2024年度会計報告は後日、臨時理事会で行う予定。

C. 審議事項

1. 2025年度事業計画(城戸庶務幹事)

1) 学術集会

ICIEM2025

会長：中村公俊 先生

会期：2025年9月2日(火)～6日(土)

会場：国立京都国際会館

2) セミナーの開催

第22回日本先天代謝異常学会セミナー

実行委員長：濱崎考史 先生

会期：2026年7月

会場：未定(大阪)

3) 理事会の開催

(1) 秋 2025年9月2日(火)

(2) 臨時 2025年10月末～11月初

※社員総会も同時開催予定

(3) 春 2026年4月17日(金)～19日(日)

第129回小児科学会学術集会会期中

於：下関市

4) 雑誌の発行

日本先天代謝異常学会雑誌 2025年 発行なし

オンラインジャーナル 2026年 論文の採用時

5) ニュースレターの発行

日本先天代謝異常学会ニュースレター 2026年 春頃

6) 関係各賞の選出

(1) 学会賞

(2) 奨励賞

(3) トラベルアワード

(4) 若手優秀演題賞

(5) アジアフェロウシップ

(6) JCR 留学支援

結果：承認

2. 日本先天代謝異常学会雑誌 オープンアクセスの件(村山理事)

会員データベースの移行にともない、会員データベースにリンクしていたオンラインジャーナルのPDFにアクセスできなくなった。これまで同様に会員のみアクセスできるようにIDとPWをつける場合は費用がかかる。そこで、オンラインジャーナルをオープンアクセスにすることについて、学術教育研究委員会においてメール審議を行った。その結果、意見が分かれたが、最終的には「オ

オープンアクセスでよい」が多数になっており、学術教育委員会は費用を明確にした上でオープンアクセスするという意見である。

結果：継続審議。

基本的にはオープンアクセスの方向で進めることとなった。J-STAGE に掲載すると費用がかかるため、見積りをとってから再度議論することとなった。まず、学会内のできる範囲での論文公開について学術教育研究委員会が中心となり継続審議とする。抄録集については別途検討する。

3. ニュースレター 印刷物での配布廃止について（渡邊理事）

報告事項 6-9) 広報委員会（オンラインジャーナル）参照。

4. 指定難病の診断基準等の見直しについて（小林弘典理事）

報告事項 6-11) 診断基準・診療ガイドライン委員会参照。

5. 将来計画委員会メンバーについて（小須賀理事）

報告事項 6-13) 将来計画委員会参照。

6. 2028 年（第 68 回）学術集会について（小林弘典理事）

島根県松江市周辺で、9 月～10 月頃に行う予定。

結果：承認

7. 会員資格喪失時の年会費徴収について

定款第 11 条では正当な理由なく、3 年以上会費の納入を怠った場合、会員資格を喪失する、とある。また、第 12 条に会員資格を喪失した場合は、本法人に対する会員としての権利を失い、義務を免れる。ただし、未履行の義務については、これを免れることはできない、とある。これらの条文の実際の運用について検討した。

結果：資格喪失者には事前に連絡をし、未納分の入金を依頼することとなった。

なお、事業年度を明確にした方がよいとの意見があり、

年会費請求の際のメールやお知らせに記載することになった。また、退会ページにも事業年度を記載できるか確認し、記載する。本件は総務委員会で継続審議する。

8. 新入会員

7 名の方から入会申請があり、承認された。

D. その他

1. ICIEM 関連の連絡（中村理事長）

ベストポスターの投票方法等のご案内があった。

2. 外部団体の情報共有

演題募集や学会の案内があった。

以上

2025 年 9 月 2 日

一般社団法人 日本先天代謝異常学会 理事会

議長・理事長 中村公俊

出席監事 小林博司

長谷川有紀